

二人の出会いは

2014年フィリピンでの語学学校

お互い学生時代を過ごした後に、雄大さんと朋子さんはフィリピンの語学学校で出会います。

その後、2014年9月に日本に戻り、半年ほど阿蘇市のホテルで働いた後、四国を中心に移住先を探しますが、阿蘇市でのホテル勤務時に何度か訪れていた南阿蘇村が忘れられず、再び南阿蘇村に戻ってきたという二人。

2015年5月から南阿蘇村に住みはじめ、村内のホテルや飲食店・農家での仕事を経て、2017年2月3日に、たこ焼き屋『万福小屋どんぶらこ』をオーブンしました。

現在、南阿蘇村で

『万福小屋どんぶらこ』始めて4年目

「自分たちでお店をやつてみたいとずっとと思っていた、失敗するつもりで始めてみました」と話す雄大さん。朋子さんの地元で人気の回転焼き屋があり、そんなお店ができるたらと準備を進めていたある日、地元の飲み会の席でどんなお店があつたらよいか尋ねてみたところ、要望が多かったのは『たこ焼き屋』でした。「それなら二一ズのある、たこ焼き屋をやってみよう!」とたこ焼き屋を始めるきっかけとなります。

ふらっときて、ふらっと帰れる場所

仲間と小屋を改装して作ったお店は二人のセンスが光ります。平日はほぼ一人でお店を切り盛りしている雄大



村人図鑑

さん。お客さんをよく観察をしているそうで、お客さん一人一人との会話やコミュニケーションを楽しんでいます。そのさりげない気遣いが心地良く、村内のみんな大分やも訪れ、南阿蘇村のおすすめの場所を伝えたり、相談などを受けることも多いです」と笑顔で話す雄大さん。

今まで描いてきたビジョンも形になつていて、

このままここで暮らしていくれば満足

「二一ズが無くなればたこ焼き屋はやめるつもりで、今は市場調査をしてまた新しいことをやってみたい」と、今現状に固執せず、時代と二一ズに合わせて身軽に動いていく姿が印象的です。

「南阿蘇村は生活がシンプルで環境が良いところが好き、早寝早起きになりました。良い景色、空気、水、野菜、必要なものは揃っています。空気や水が美味しいので、コーヒーや食事も美味しく感じるようになりました。南阿蘇村は人が良くて、海外にいるような何でも「よかよか!」という、おおらかなところが自分たちにもしつくりきました。子どもも成長してきているので、今後は子どもや庭の畠にもう少し時間や手をかけられたらと思っています」。

現在のお店や家も地元の方から紹介してもらつたという二人。「周りの方たちが応援してくれることに感謝しています」と話す二人の言葉から、謙虚な姿勢がここで暮らすための大切なことだと感じました。

地域の人や

観光客が集うお店は、
たこ焼き屋と

いうよりも

コミュニティースペース

たこ焼き屋と
コミュニティースペースたこ焼き屋と
コミュニティースペース

たこ焼

—23—

